



2023年12月8日

日本鉄道労働組合連合会

## 第5回国際労働組合総連合アジア太平洋地域組織(ITUC-AP)大会

# 世界の労働者と連帯を深める！

11月20日から22日にかけて、タイ・バンコクにおいて開催された第5回国際労働組合総連合アジア太平洋地域組織(ITUC-AP)地域大会に、日本の労働者を代表する連合の代議員として16名が参画し、JR連合から初めての代議員となる、JR東海ユニオンの榎裕文野執行委員が参画した。



大会には、日本を代表する連合の代議員として16名が参加

連合代議員16名のうち女性は11名、青年は4名となり、AP規約に基づく「代議員の50%が女性、15%以上は青年(35歳未満)」という基準を大幅に上回った。

4年ごとに開催され今回で5回目となる大会には、46の加盟組織から171名が参加し、「連帯して前進:アジア太平洋地域における公正かつ包摂的な仕事の未来に向けて新しい社会契約を推進」をメインテーマに、3日間にわたり計53名から発言がなされた。

日本から参加した連合の代議員は、大会テーマに賛同の立場から、芳野友子会長をはじめ、5名の代議員から「平和、ジェンダー平等・多様性推進、社会対話」「生活費危機への対応」「公正な移行」「ビジネスと人権」「インフォーマルセクター労働者を含む社会的保護」に関し発言を行った。



発言する榎裕代議員

榎裕代議員は「生活費危機への対応」をテーマに発言し、日本において20年以上賃金水準が低迷していることに触れ、「賃金底上げ、格差是正を図り、分厚い中間層の復活、働く貧困層の解消を目指す必要がある」と述べ、「2024春季生活闘争において、5%以上の賃上げを目標に、企業規模間・雇用形態間・男女間の格差を是正し、労務費を含む価格転嫁を促進するとともに「人への投資」をより積極的に行い、成長と分配の好循環を生み出す」と力強い決意を述べた。

大会3日目には役員選挙が行われ、吉田昌哉氏(連合参与)が満場一致で書記長に再任されるとともに、連合からは芳野会長が副会長に再任され、大会宣言を採択して幕を閉じた。



女性労働者の権利、社会的保護について声を上げるデモンストレーション